

特集 スピーキング力を伸ばす

# 日常の授業の延長線上にある スピーチ活動

溪内 明

(東京都足立区立第十中学校)

## 1. はじめに

私はスピーキング指導のゴールの1つを、人前で自分の意見や感想などを自信を持って発表ができることとしている。

具体的な活動としては、教科書本文のリプロダクションとスピーチを発表活動の中心としている。スピーチは生徒があらかじめ原稿を作成して、それを暗誦して発表する prepared speech である。絵・写真、実物などの資料を示しながら発表する Show & Tell の形式を基本に行っている。ただ暗記した英文を話すだけの発表よりも、提示物がある方が、話し手にとっては発表がしやすいし、聞き手にとってはスピーチの内容が理解しやすく、親しみのあるものになるからである。

## 2. 日常の授業の延長線上にあるスピーチ

スピーチは唐突に行う活動ではなく、教科書を中心とした学習活動や言語活動(日常の授業)の延長線上にある活動として位置づけている。スピーチの指導だけに多くの時間は使うことはできない。教師にとっては、日常の授業で指導していることがスピーチ指導に活かせることが大切である。そうすれば、生徒にとってもスピーチに取り組みやすくなる。

日常の授業からスピーチに至るまでには、次のようなステップをふんでいる。

- (1)教科書本文のオーラル・イントロダクション
- (2)教科書本文の音読
- (3)教科書本文のリプロダクション
- (4)スピーチ(Show & Tell)の発表

(1)(2)については説明の必要がないと思うが、(3)のリプロダクションとは、音読練習を終えた(read

& look up まで終わらせた)あと、教科書本文の英語を板書した key words を頼りに、ピクチャー・カードを見せながら口頭で発表する活動である。教科書本文の暗誦を基本とした発表活動であり、スピーチの基礎になると考えている。また、2年生後半からは、リプロダクションのあとに自分の意見を付け加えて言う活動を行っている。リプロダクションは、本文のオーラル・イントロダクションや音読の延長線上にある活動であり、スピーチはさらにその延長線上にある活動として位置づけている。

## 3. スピーチのトピック

私は3年間を通して6回のスピーチを行っている(私が勤務する地区の学校は2期制なので、前期と後期に1回ずつ行う)。トピックは教科書に出てきた語句や文型・文法、本文に出てきた話題を活用できるように設定している。

- |     |   |
|-----|---|
| 1年生 | ①「教科書の登場人物紹介」(L.4)                      |
|     | ②「自己紹介」(L.8)                            |
| 2年生 | ③「ある日の出来事」(L.2)                         |
|     | ④「将来の夢」or「10年後の私」(L.5)                  |
| 3年生 | ⑤「My Treasure」or「My Best Friend」(L.3,4) |
|     | ⑥「教科書に出てきた話題」(11~12月)                   |
|     | ※①~⑤は( )内の教科書(NEW CROWN)の課が終了したあとに行う。   |

上記の②~⑤では、それぞれ「必ず使用する文型・文法」を指定し、②では助動詞 can, ③では過去形(一般動詞および be 動詞)、④では助動詞 will および to+動詞の原形(不定詞)、⑤では have+過去分詞(現在完了形)のように、学習した文型・文法を活用

できるようにしている。

なお、①は、*NEW CROWN* に出てくる Ken, Kumi, Emma, Paul, Ratna 等の人物から一人を選び、L.1～L.4の本文に書かれている情報をもとに、顔が描かれた picture card を見せながら人物紹介する、1年生が初めて行うスピーチである。1～2文自分が創作した情報も付け加える。⑥は、これまでに教科書本文に出てきたトピック(聴導犬, 自然環境, 温室効果, カンボジアの地雷, 世界遺産, 原爆等)の中から1つを選び、それについて行うスピーチである。教科書本文の英文を引用し、それをベースにスピーチを展開させる。前述のリプロダクションに自分の意見を付け加える活動を発展させたものである。

#### 4. スピーチの指導手順

私は以下の手順でスピーチ指導を行っている。

- (1) モデル文を提示して、やり方を説明する(ハンドアウトと下書きを書く用紙を配付する)。

※ハンドアウトの例 (2年生「ある日の出来事」)

「ある日の出来事」について10文くらいでスピーチをしましょう。

##### 【モデル文】

- ① Hello, friends.
- ② Last Saturday I went to Kita Park with Ken.
- ③ We went there by train.
- ④ It was a sunny and hot day.
- ⑤ We enjoyed fishing there at the lake.
- ⑥ Look at this picture.  
[釣った魚の写真を見せる]
- ⑦ I got three fish and Ken got two fish.  
[数を表すジェスチャーをする]
- ⑧ We were very happy.  
[感想を言う]
- ⑨ After that we had *onigiri* by the lake.
- ⑩ Do you like fishing?  
[聞き手に質問する]
- ⑪ Thank you for listening.

- (2) モデル文の音読練習をする。

- (3) 下書き原稿を作成する。

- (4) 下書き原稿を教師がチェックする。

- (5) 最終原稿を作成する。

- (6) 2～3名の生徒同士で原稿を見せあう(よい点, わかりづらい点等を指摘しあう)。

- (7) 各自で練習する(原稿は暗誦する)。

##### 【留意点】

- ・原稿を書く前に、学級全員でトピックに関するいろいろなアイデアを出し合い、情報を共有する。
- ・スピーチの長さ(語数や文の数)は最初と最後の挨拶を含めて示す。6回行うスピーチで段階的に語数や文の数を増やしていくとよい。
- ・モデル文には、英文以外に、例のようなスピーチの展開等に関する説明を示しておくとうわかりやすい。
- ・下書きは初めから英語で書かせる(日本語を英訳しようとする、生徒の英語力を超えた内容になってしまう)。
- ・スピーチで使用する語いは、聞き手への配慮として、原則として既習のものとする。未習の語いは使用する場合は教師に相談させる。
- ・下書きにジェスチャーやものを提示するタイミングなどを書き込ませる。

#### 5. 発表の方法

- ・発表順をあらかじめ決めておき、教室に掲示する。
- ・1回ごとの授業で3～4名ずつ実施する。または、特定の1時間に「学級スピーチ大会」のようにして、全員がスピーチを行う方法もある。
- ・教師は必ず教室の一番後ろの方でスピーチを聞く。
- ・聞き手の生徒にも、顔を上げてスピーチを聞くように指示する。

#### 6. スピーチにおける発展的な活動

スピーチは基本的には、話し手が一方的に話す活動であるが、スピーチ終了後に聞き手が話し手に質問をしたり(例: What kind of fish did you get?), スピーチのあとにどのような内容だったかを言わせたり、感想を発表させたりすると、interactive な活動にすることができる。

【参考】ELEC 同友会英語教育学会実践研究部会 編著 (2008)『段階的スピーキング活動 42』三省堂